

議会だより

6月定例会一般質問

6月定例会の一般質問の要旨は、次のとおりです。
(質問順)

■木治正人議員



問① ①消滅可能性市町村に分類された本村における今後の行財政運営について

今から10年前の平成26年、民間有識者で組織された人口戦略会議で「曽爾村は消滅する可能性がある自治体」と報告があり大きな衝撃を受けました。そして本年4月24日に新たな公表がありました。

今回の公表では、10年前と比較して若年女性人口の減少率が改善されたことありましたが、依然として消滅可能性自治体からは脱却できない現状であることは否めない事実です。この報告は、あくまでも民間団体の見識であり、今後の自治体のあり方について問題提起と捉えるものの、喜ぶことなく行財政運営を遂行することは必至であると考えています。

芝田村政は「貫して」持続可能なオン

リーワンめぐるべの郷「曽爾村」を基本に運営されており、任期2年余りとなった今、今回2度目の報告を受け、今後の行財政運営をどのように実施されるのかを伺います。

答弁① (芝田村長)

10年前の報告では、2010年から2040年までに人口の再生産を担う20代から30代の女性人口が半数以下に減少する自治体を「消滅可能性自治体」とされ、全国の自治体49.8%、896自治体になると発表されました。曽爾村も含まれ、他の自治体にも強い衝撃があり人口減少対策に拍車がかかりました。

今回の報告では、2020年から2050年までの30年間で全国の自治体40%、744自治体であると公表されました。

この公表を受け全国町村会では、人口減少への対応や独自の地域づくりに懸命に取り組み、これまでの努力に水を差すものと批判し、大きな要因は、東京圏への一極集中と少子化によるもので、自治体だけでは抜本的な改革をはかれるものでなく、国の施策の検証と自治体への二層の支援を求めるコメントを発表しました。このコメントについては、私も同感しているものの、危機感を持たせるためのシグナルとも感じています。

村長就任以来「持続可能なオンリーワンめぐるべの郷曽爾村」を目指し、移住定住対策を最重点課題として捉え、地域おこし協力隊制度の活用、空き家対策、子育て支援、農林業公社の設立など第1期第2期曽爾村まちひとしごと総合創生

戦略を策定し職員丸となって取り組み、若年女性人口の減少率が10%改善され、人口社会増など一定の成果が見え始めています。

今年度は、次期計画策定の年度でもあり、子育て支援策のさらなる充実、移住者支援、基幹産業の農林業観光業の支援を基軸にし、関係人口の創出から人口の社会増を目指すことで新たな労働力の獲得と生産力の向上を図る計画にしたいと考えており、村長就任3期目の集大成として、村民憲章を基軸に持続可能なむらづくりを全力で取り組んでまいります。

■東口敏哉議員



問② ②曽爾村地域総合センターのグラウンドの活用について

曽爾村の基幹産業の一つである観光は、曽爾高原温泉お亀の湯などの観光施設、最近では民間業者の新たなお店ができるなど滞在できる施設が徐々に増えてきました。観光客からは滞在時間が延長できる施設はまだ不足しているとの意見もあります。また、曽爾村の子ども達に対しては、子ども達の遊び環境は変化しているものの、集う場所が少なく、そして屋外で村民が交流する場が

少ないとも思われます。

あまり活用されていない地域総合センターのグラウンドを校や遊具などの公園等に改修してはと考えており、費用は寄附を募り、皆で知恵を出し合いながら整備してはどうかとも考えています。このグラウンドの活用について、何か計画されているのかを村長、教育長に伺います。

答弁② (芝田村長)

曽爾村地域総合センターの本格運用に向けて、運営協議会の立ち上げや管理運営規則等の法令整備を進めているところで、村内外の皆様に気軽に利用いただけるようにと考えています。当センターのグラウンドは、学童保育の遊び場、少年サッカーの試合や練習などにも利用され、またグラウンドゴルフにも活用したいとの申し入れもあることから、今後この機能を残すことが必要であると考えています。

答弁② (山本教育長)

村長の答弁のように、学童保育の活用などでグラウンドの機能を残すことが必要であると考えています。今後、運営協議会を立ち上げ、東口議員からの提案として受け止めていただきます。

地域総合センターは、村の方々、観光客や移住希望者が来館されますので、職員の接客マナーや来館者の利便性向上など曽爾村の迎賓館として捉え、良き印象を持ついただける美観を備えた施設になるよう進めてまいります。

問③ ③曽爾健民運動場の活用について

地滑り災害により、その後曾爾健民運動場は利用が休止状態であります。その間、県内の村対抗野球大会なども吉野町の施設を利用するなど不便でありました。また、大阪や県内など野球チームが約30団体あり、曾爾村の近隣の施設は不足しています。野球チームは、多くの人数で構成されており、何チームも交流試合をするとなると多くの来訪者が見込まれます。

そこで、曾爾健民運動場を早期に改修し、野球チームをはじめサッカーチームの受入れもできる環境づくりを進めるべきだと考えますが、何か計画されているのかを村長、教育長に伺います。

答弁 ③（芝田村長）

曾爾健民運動場は、平成30年7月28日の台風12号の大雨により、グラウンド北側の山の土砂が流入し、グラウンドの約3分の1が土砂で埋まりました。令和元年度に国の治山事業で土砂を撤去されたものの、湧水などにより本格的に使用できる状況ではありませんでした。

こうしたこともあって、令和3年12月に健民運動場の方向性を検討するため有効活用基本計画を策定し、3つの提案がありましたが、いずれも色々な問題点もあることから更に検討する必要がありますと考えていますので、ご理解をお願いします。

なお、有効活用計画案について教育長の方から答弁をします。

答弁 ③（山本教育長）

この有効活用基本計画では、まず人気のあるサン・ビレッジ曾爾オートキャンプ

場に隣接していること、観光名所の鎧岳や兜岳が望め、東側は眺望が開かれ立地条件が素晴らしいことが記されています。そして3つの案が示されています。

第1案は、サン・ビレッジ曾爾の拡張案でグランピングやソロキャンプに対応できる整備、第2案ではサン・ビレッジ曾爾と連携したアスレチックや遊具の整備、そして第3案は、少年サッカーの合宿ができるリニューアル整備となっています。

次に、現在の健民運動場の状況ですが、昭和58年に建設され40年以上が経過するなど老朽化が進み、前年度には駐車場の地盤沈下がありました。南側斜面の崩落、地下の一部空洞化の可能性があり、また野外照明設備の支柱や照明器具の老朽化なども心配しています。

今後は、維持管理に努めるとともに、基本計画や安全面を考慮しながら検討を進めたいと考えています。

■議会傍聴のお知らせ

次回の定例会は9月中旬に開会予定です。

本会議や常任委員会・特別委員会は一般に公開され、個人でも団体でも自由に傍聴できます。傍聴は、議会活動に触れる最も身近な方法でもありますから、議員の活動や村政の方針などを実地に見聞できる議会の傍聴をお勧めします。

傍聴にあたっては、会議当日に議場傍聴席入り口にある傍聴人受付簿に住所・氏名・年齢を記入していただくだけで傍聴していただけます。議会日程等は、ケーブルテレビ等でお知らせします。

民生児童委員 赤ちゃん訪問

6月28日（金）、赤ちゃんがおられるご家庭を主任児童委員と地元民生委員が訪問しました。主任児童委員は子どもに関することなどを中心に妊娠中や子育てへの不安の相談や支援を行っています。お子様のことでご相談がございましたら、お気軽に民生児童委員までお声がけください。



曾爾村民生児童委員協議会事務局 ☎0745-94-2103